

水稻の高温対策を実施しましょう

高温の影響により、水稻の収量・品質が大きく低下することがあります。

今こそ、施肥対策などを徹底し、今年も予想される夏の高温に備えましょう。



白未熟粒

出典：岡山県農林水産総合センター

4つのポイント

① 施肥

- 幼穂形成期以降の葉色が薄いときは、追肥をしましょう。
- 高温に強いとされている品種でも、追肥が必要な場合があります。
- 追肥用の肥料は、あらかじめ準備しておきましょう。

② 水管理

- 水田内の温度を下げ、稲体の活力を維持するため、かけ流しや夜間かん水をしましょう。

③ 適期収穫

- 刈り遅れは品質の低下につながるので、適期に収穫しましょう。

④ 病虫害防除

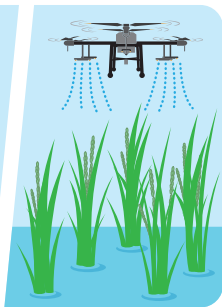
- 高温年に多発しやすいウンカ類やコブノメイガ、紋枯病に注意しましょう。

高温年でも

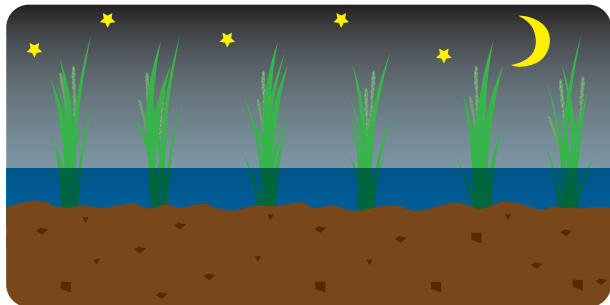
1等米穫れたよ！～県内生産者の取組事例～



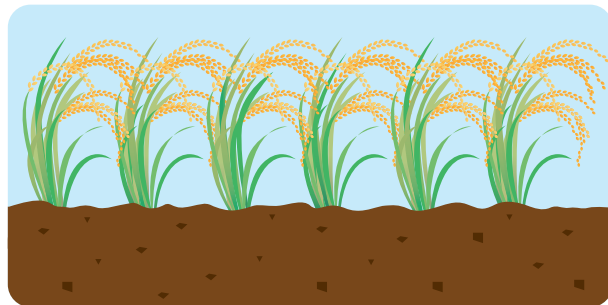
- 生育状況に応じて追肥をして、葉色が低下しすぎないようにしました。



- 地力を上げるために資材を活用しました。
(堆肥、鶏ふん、緑肥、土づくり資材等)



- 出穂後の水管理は、夜間かん水を基本に、できるところはかけ流しをしました。



- 落水をできるだけ遅らせました。



©岡山県「ももっち・うらっち」

岡山県地域稲作戦略推進会議

(事務局：岡山県農林水産部農産課 TEL：086-226-7424)

令和7年6月発行